

国立研究開発法人

日本医療研究開発機構（AMED）委託事業

オーダーメイド医療の実現プログラム
東京大学医学部附属病院 病理部
ゲノム病理標準化センター

平成 27 年度

東京大学医学部附属病院 病理部

ゲノム病理標準化センター

第 3 回 病理標準化センター講習会 報告書

平成 27 (2015) 年 12 月

第3回 ゲノム病理標準化センター講習会報告書

東京大学医学部附属病院 病理部ゲノム病理標準化センターにおいて、「組織検体取扱の改善・標準化法の開発」の一環として、ゲノム研究等に資する質の高い病理組織検体の取扱いに関する高度専門知識を有する人材の育成を目的とした「第3回ゲノム病理標準化センター講習会」を2015年12月6日に開催した。

過去2回の講習会は、第1回講習会は「ゲノム病理標準化センター講習会」を行っていくための「実証講習会」として、2015年3月28日、29日の2日間、第1日目に座学講習、第2日目は実習講習を行い、日本病理学会の委託事業である「組織取扱い規定」を作成するために実証研究に関わっている施設の医師や技師、ゲノム研究の第一線の先生方など、のべ94名の方が参加した。第2回講習会は2015年8月8日、9日の2日間、JCOGの臨床研究グループの先生方を中心に、第1日目座学講習、2日目実習講習の構成で、2日間でのべ74名の医師および技師の方々にご参加いただいた。

今回の第3回講習会は、東京大学医学部附属病院 中央診療棟7階大会議室にて、座学による講義講習を企画し、既に技術的なノウハウに関しては精通している臨床検査技師をはじめ、技術系の先生方、バンキングを担当あるいは計画されている施設、部門の責任者の医師等を中心に参加していただき、さらにゲノム医療の実践というアウトカムを意識して、製薬会社や試薬メーカーの方々にも参加を呼びかけ、77名の方々の参加があった。

日本病理学会担当の「組織取扱い規定(案)」がかなりブラッシュアップされたことを受けて、今回新たに「ゲノム標準化センター講習会テキスト」を製本し、参加者全員に配布した。

主催者を代表して東京大学医学部附属病院 病院長 斎藤延人氏のご挨拶に始まり、AMED バイオバンク事業部 部長 加藤治氏より本プロジェクトの取組等についてのご挨拶・ご説明がなされた。続いて「組織検体取扱い規定」を作成するための実証研究を受託している日本病理学会を代表して、日本病理学会 理事長 深山正久氏より病理学会での実証研究全般に関する取り組みと本講習会との関連等についてのご挨拶をいただいた。文部科学省からは、研究振興局 研究振興戦略官付係長 高市和則氏、同 研究振興戦略官付 調査員 中武真由香氏もご参席下さった。

引き続いての講義では、「オーダーメイド医療の実現プログラム」のプログラムリーダーである、理化学研究所 統合生命医科学研究センター 副センター長 久保充明氏より「ゲノム医療実現に向けたオーダー

メイド医療の実現プログラムの取り組み」というテーマでご講演いただいた。続いてバイオバンクジャパン（BBJ）が置かれている東京大学医科学研究所から、所長 村上善則氏に「東京大学医科学研究所における BBJ 病理組織バンキング」というタイトルでこれまで BBJ として行ってきた事業および今後の組織バンキングに関する取り組み、施設紹介などのご講演があった。

さらに「ヒト病理検体からのゲノム診断と研究」というテーマで、日本病理学会ゲノム病理診断検討委員会 委員長 小田義直氏より、「病理診断を妨げない検体採取法等」を主とした講演があり、次いで日本病理学会への委託事業である実証研究に関して、日本病理学会ゲノム病理組織取扱い規約委員会 委員 西原広史氏より、実証研究を行っている 7 施設の研究実証を踏まえて「検体取扱いガイドラインのための実証研究に関して」というテーマで、これまでに実証された研究についての報告があった。この内容は、第 2 回講習会よりもさらにブラッシュアップされた内容であり、非常に充実したものであった。

講習会の終了にあたり、聴講生には修了証書が授与された。

（文責 東京大学医学部附属病院 病理部 佐々木毅）